



# FY2017 Consolidated Business Results

2018年3月期 第2四半期  
決算説明資料

1. 2018年3月期 第2四半期 決算概要

2. 2018年3月期 第2四半期トピックス  
および成長戦略（グローバル事業）

3. 2018年3月期 第2四半期トピックス  
および成長戦略（メディカル事業）

4. ホールディングスの役割

# 1. 2018年3月期 第2四半期 決算概要

◆ 8月9日発表の上方修正値を經常利益ベースで40%上回り着地

売上高

1,545百万円

(前年同期比106.8%)

經常利益

156百万円

(前年同期比 90.7%)

(上方修正値比140.2%)

經常利益率

10.2%

(前年同期実績12.0%)

当期純利益

95百万円

(前年同期比90.7%)

(上方修正値比163.3%)

◆ 既存事業が堅調に推移、戦略的な投資（独自アセットのR&D/開発センター拡張/米国市場開拓）を吸収したうえで8月9日発表の上方修正値を利益ベースで大幅に上回り着地

	2017年3月期 第2四半期		2018年3月期 第2四半期		8月9日 公表 予想値比
	金額	売上比率	金額	売上比率	
売上高	1,447	100.0%	1,545	100.0%	100.1%
営業利益	128	8.9%	135	8.8%	136.1%
経常利益	173	12.0%	156	10.2%	<b>140.2%</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	105	7.3%	95	6.2%	163.3%

（単位：百万円）

- ◆ 強固な財務基盤と流動性を確保。今後の機動的な投資に対応
- ◆ 「連結」における利益剰余金のマイナスが大幅に縮小

(単位：百万円)	2017年3月期	2018年3月期 第2四半期	前期比増減額
流動資産	1,862	2,030	167
( 現 預 金 )	1,079	1,222	142
固定資産	366	389	22
総 資 産	2,229	2,419	189
負 債	1,119	1,198	78
( 有 利 子 負 債 )	182	141	△41
純 資 産	1,109	1,220	111
自己資本比率	49.8%	50.5%	0.7%

- ◆ 前年度に引き続き **営業利益・経常利益ともに過去最高益**を計画
- ◆ AIソリューションおよび医療ビッグデータに係る **大手企業との協業を本格開始**
- ◆ 為替（円高）効果および子会社エーアイエスにおける **事業再構築**の効果が発現

	2017年3月期		2018年3月期		増加率
	金額	売上比率	金額	売上比率	
売上高	2,992	100.0%	3,527	100.0%	17.9%
営業利益	237	7.9%	356	10.1%	<b>50.2%</b>
経常利益	289	9.7%	351	10.0%	21.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	112	3.8%	214	6.1%	<b>90.4%</b>

(単位：百万円)

## 2. 2018年3月期 第2四半期トピックス および成長戦略（グローバル事業）



## 米国でのマーケティング本格開始

- ◆ 国際展示会におけるデータ分析ソリューションおよび最新の導入事例発表を皮切りに米国におけるマーケティングが本格始動



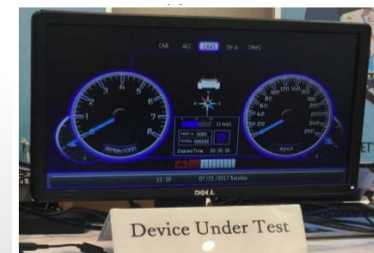
## AI事業における着実な進捗

- ◆ 大手メーカー向け音声AIプラットフォームのフェーズ1の開発が順調に進捗。
- ◆ IBM Watsonを活用した顧客向け開発プロジェクトを先進システム開発室が開始



## 自動車業界向けソリューションの開発基盤を発表

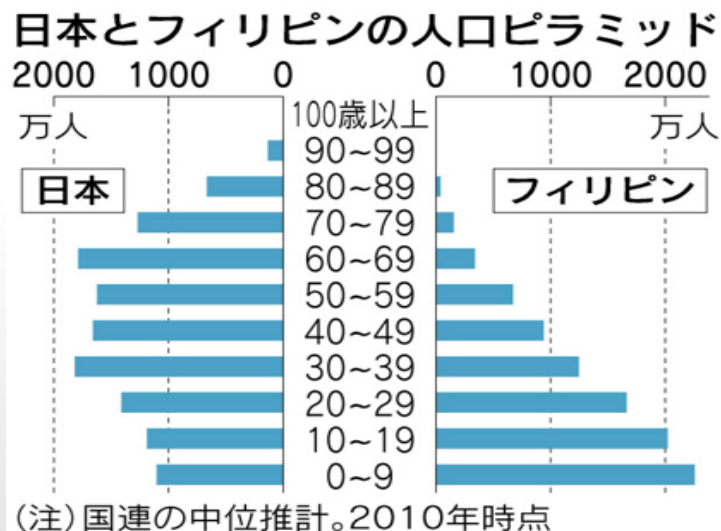
- ◆ ZMPフォーラム2017にて自動車業界向けSDL（スマートデバイスリンク）を用いた新ソリューション「車載機器向けAIアシスタント」の開発基盤を発表
- ◆ 大手メーカーおよびTier1サプライヤーから、当社次世代型ソリューションの活用を目的とした協業に向けた引合い多数



## IT人材市場

- ◆ 2030年まで78.9万人の国内IT人材が不足（経済産業省）するなか、日本の「知恵と経験」、フィリピンの「若く優秀な頭脳と活力」を組合せる Win-Win方程式を定義
- ◆ 日本の平均年齢47歳に対しフィリピンの平均年齢は23歳

Source: 日本経済新聞「若いフィリピン 老いる日本 2028年に人口逆転」2013/2/19付け



## 先端テクノロジー市場

- ◆ 企業はデジタルトランスフォーメーション\* (DX) の時代へ突入
- ◆ 今後は企業の成長戦略・競争優位の確立にDXを活用したイノベーションが不可欠
- ◆ 当社グループはDXの鍵を握るIOT/認知システム/ロボティクスその他領域における先端人材を他社に先駆けて育成

企業の「**技術革新**」を支援

Ubicom Group の「DXプラットフォーム」技術  
(例)

- ・ 製造業向けIoT/分析技術
- ・ データ分析・ソーシャル技術
- ・ クラウド技術を活かした分析エンジン 等々

\*企業が第三のプラットフォームを活用して、新しい製品やサービス、ビジネスモデルで価値を創出し、競争優位を確立すること (IDC定義)

## 売上の拡大および高利益率の実現

- ◆ 3A\*と戦略的ドメイン（自動車／金融／医療／製造・ロボティクス）を掛け合わせた売上拡大・高利益率の実現
  
- ◆ 2018年第2四半期の進捗事例
  - ① 単価増加：大手顧客メーカーへのAIソリューション
  - ② 顧客増加：米国ヘルスケアのテレメディスン  
フィリピン発電所・ASEAN船舶会社のAI予知保全

※ Automation / Analytics / AI 当社が定義するターゲットとする戦略市場

## 売上の拡大および高利益率の実現

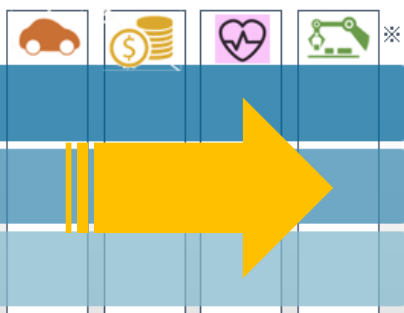
**顧客単価の増加**  
既存開発+3A



**顧客の増加**  
同業種+異業種



**アセット収益**  
保守/LICENSE

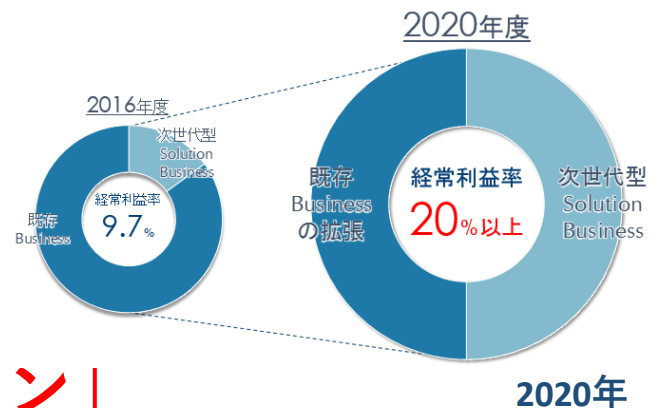


※ロボティクス、公共、物流、地図情報等

## 「次世代ソリューション」 の横串機能を強化

**アセット型  
積み上げ収益**

利益の半分を次世代型ソリューションにて創出



- +自動化
- +分析
- +AI (人工知能)
- ①単価の増加
- ②顧客の増加

### 3. 2018年3月期 第2四半期トピックス および成長戦略（メディカル事業）

## 医療ビックデータ分析 協業開始

- ◆ 世界規模の医療情報データベース提供企業とデータ分析事業で協業開始
- ◆ 子会社エーアイエスが手掛ける医療ビッグデータソリューションと、セールスフォース・ドットコムが提供するビジネスアプリケーションおよびAIとの連携が実現、Salesforce App Cloudを活用した医療ビックデータ分析ソリューションの提供を開始



## Mightyシリーズの堅調な売上

- ◆ 主力パッケージソフトMighty Checker/Mighty Qube の堅調な推移
- ◆ 日本最大級の医療機関グループにて採用、チェックを行ったレセプトデータを、医療データ分析ツール（BIツール）として活用

## エンジニアのグループ共有

- ◆ 子会社エーアイエスにて医療システム開発にフィリピンのグローバル人材を投入、グループ間の相乗効果を活かし更なる高収益へ
- ◆ 今後もグループ内にて横断的なタスクフォースを活用

(医療分野における利益額拡大及び利益率の向上実現へ)

Ubicom  
Holdings

×

医療ビッグデータ分析の  
リーディングカンパニー  
5,000億市場へ



AIS  
レセプト点検ソフト  
のリーディング  
カンパニー

医療業界を代表する  
パートナーとの  
戦略的提携の実行

- ◆医療情報データベース提供企業
- ◆医療機関へのサービス事業会社
- ◆調剤・医科システム開発会社

## 新規事業：新たなストック型ビジネスの創出

- ◆ 医療ビックデータ分析における新たな**ストック型ビジネス**創出

売上  
総利益率

約60~80%\*

(\*2020年に向けての想定)

## 既存事業：高い利益率を引き続き継続

- ◆ メディカル事業にてこれまで達成してきた**ニッチ NO.1**事例

主カパッケージソフト  
(マイティーチェッカー)

主カパッケージソフト  
(マイティーキューブ)

売上  
総利益率

約72%

(2017年3月期)

売上  
総利益率

約65%

(2017年3月期)



## 4. ホールディングスの役割

## ◆ 東京証券取引所市場第一部への市場変更を見据えた取り組み

### 【主な経営トピックス】

東京証券取引所市場第一部への市場変更に向けた申請を  
すでに行いました。

- 2017年8月31日 東京証券取引所市場第一部への  
市場変更に向け株式の分売実施
- 2017年10月1日 1対2の株式分割を実施
- 2017年11月29日-12月5日 再度の株式の分売実施予定



## 利益額拡大及び 経常利益率20%以上へ

### 更なる事業の拡大に向けた ホールディングスが発揮する機能

‘Screening’  
グローバル目線  
の案件発掘

‘Valuation’  
先端技術・  
事業を通じた  
アライアンスの  
仕組み作り

- 戦略的な業務提携
- 戦略的資本提携
- M&A
- 合併会社

- ◆ 本発表において提供される資料ならびに情報は、当社による現時点における推定または見込みに基づいた将来展望についても言及しております。
- ◆ これら将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。それらのリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、為替変動といった国内および国際的な経済状況が含まれ、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- ◆ 当社の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- ◆ 本資料における将来展望に関する表明は、利用可能な情報に基づいて当社によりなされたものであり、今後、新しい情報や将来の出来事等があった場合であっても、将来展望に関するいかなる記載も更新し、修正を行う義務を負うものではありません。